

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成23年8月11日(2011.8.11)

【公開番号】特開2010-46366(P2010-46366A)

【公開日】平成22年3月4日(2010.3.4)

【年通号数】公開・登録公報2010-009

【出願番号】特願2008-214699(P2008-214699)

【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 2 5 Z

A 6 3 F 7/02 3 0 4 B

【手続補正書】

【提出日】平成23年6月24日(2011.6.24)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

始動入賞口と、前記始動入賞口を遊技球が通過したことを検出する始動入賞球検出装置と、制御装置を備え、前記制御装置は、前記始動入賞球検出装置によって遊技球が前記始動入賞口を通過したが検出されたことに起因して抽選を行い、抽選結果に基づいて遊技者に有利な大当たり遊技状態を発生させる遊技機であって、

磁気を検出する有接点式の磁気検出装置を備え、

前記制御装置は、前記磁気検出装置が磁気を検出している検出期間 T を測定し、下限値 T a と上限値 T b ($0 < \text{下限値 } T a < \text{上限値 } T b$) の範囲内の検出期間 T を設定回数 N 回 (N は 2 以上の整数) 測定した場合には、遊技を中断することを特徴とする遊技機。

【請求項 2】

開口部と、前記開口部を開閉する開閉部材と、前記開口部を通過した遊技球が移動する入賞空間および前記入賞空間に連設された特別領域を有する可変入賞装置と、前記特別領域を遊技球が通過したことを検出する特別球検出装置と、制御装置を備え、前記制御装置は、当たり遊技獲得条件の成立に起因して前記開閉部材を開制御するとともに有効期間を設定し、前記有効期間内に前記特別球検出装置によって遊技球が前記特別領域を通過したことが検出されたことによって遊技者に有利な大当たり遊技状態を発生させる遊技機であって、

磁気を検出する有接点式の磁気検出装置を備え、

前記制御装置は、前記磁気検出装置が磁気を検出している検出期間 T を測定し、下限値 T a と上限値 T b ($0 < \text{下限値 } T a < \text{上限値 } T b$) の範囲内の検出期間 T を設定回数 N 回 (N は 2 以上の整数) 測定した場合には、遊技を中断することを特徴とする遊技機。

【請求項 3】

請求項 2 に記載の遊技機であって、

始動入賞口と、前記始動入賞口を遊技球が通過したことを検出する始動入賞球検出装置を備え、

前記制御装置は、前記始動入賞球検出装置によって遊技球が前記始動入賞口を通過したことが検出されたことに起因して前記開閉部材を開制御するとともに前記有効期間を設定することを特徴とする遊技機。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0004

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0004】

本発明の第1発明は、

始動入賞口と、前記始動入賞口を遊技球が通過したことを検出する始動球検出装置と、制御装置を備え、前記制御装置は、前記始動球検出装置によって遊技球が前記始動入賞口を通過したが検出されたことに起因して抽選を行い、抽選結果に基づいて遊技者に有利な大当たり遊技状態を発生させる遊技機であって、

磁気を検出する有接点式の磁気検出装置を備え、

前記制御装置は、前記磁気検出装置が磁気を検出している検出期間 T を測定し、下限値 T_a と上限値 T_b ($0 < \text{下限値 } T_a < \text{上限値 } T_b$) の範囲内の検出期間 T を設定回数 N 回 (N は 2 以上の整数) 測定した場合には、遊技を中断することを特徴とする遊技機である。

また、本発明の第2発明は、

開口部と、前記開口部を開閉する開閉部材と、前記開口部を通過した遊技球が移動する入賞空間および前記入賞空間に連設された特別領域を有する可変入賞装置と、前記特別領域を遊技球が通過したことを検出する特別球検出装置と、制御装置を備え、前記制御装置は、当たり遊技獲得条件の成立に起因して前記開閉部材を開制御するとともに有効期間を設定し、前記有効期間内に前記特別球検出装置によって遊技球が前記特別領域を通過したことが検出されたことによって遊技者に有利な大当たり遊技状態を発生させる遊技機であって、

磁気を検出する有接点式の磁気検出装置を備え、

前記制御装置は、前記磁気検出装置が磁気を検出している検出期間 T を測定し、下限値 T_a と上限値 T_b ($0 < \text{下限値 } T_a < \text{上限値 } T_b$) の範囲内の検出期間 T を設定回数 N 回 (N は 2 以上の整数) 測定した場合には、遊技を中断することを特徴とする遊技機である。

また、第3発明は、

第2発明の遊技機であって、

始動入賞口と、前記始動入賞口を遊技球が通過したことを検出する始動入賞球検出装置を備え、

前記制御装置は、前記始動入賞球検出装置によって遊技球が前記始動入賞口を通過したことが検出されたことに起因して前記開閉部材を開制御するとともに前記有効期間を設定することを特徴とする遊技機である。

「大当たり遊技」としては、例えば、可変入賞装置の開閉部材を、当たり遊技獲得条件成立時より長い期間開制御して、遊技球が可変入賞装置の開口部をより通過し易くする遊技態様や、大入賞口を開閉する開閉部材を開制御して遊技球が大入口に入球し易くする遊技態様が用いられる。

磁気検出装置としては、安価に入手可能な有接点式の磁気検出装置が用いられている。有接点式の磁気検出装置は、例えば、検出していない時には接点は開いており（開状態）、磁気を検出した時には接点が閉じる（閉状態）。磁気検出装置は、磁石等の磁気を用いて遊技球を不正に移動させて不正遊技を行う可能性が高い箇所に配置される。

磁気検出装置が磁気を検出している検出期間 T を測定する方法としては、典型的には、磁気検出装置から、磁気を検出していることを示す磁気検出信号が出力されている期間を測定する方法が用いられる。

下限値 T_a 、上限値 T_b および設定回数 N は、使用する有接点式の磁気検出装置の構成や使用状態等に応じて適宜設定される。下限値 T_a は、遊技球が遊技領域を移動する際の振動等によって磁気検出装置が誤動作する期間（例えば、接点が閉状態となる期間）より

長く設定される。また、上限値 T_b は、磁気を用いた不正遊技が行われる際の磁気検出装置の最小の動作期間（例えば、接点が閉状態となっている期間）より短く設定される。

第 1 ～ 第 3 発明では、有接点式の磁気検出装置が磁気を検出している検出期間 T が下限値 T_a と上限値 T_b の範囲内である状態が設定回数 N 回発生したことによって、有接点式の磁気検出装置の接点が劣化していることを判別し、遊技を中断する。これにより、有接点式の磁気検出装置の接点が劣化していることを簡単な構成で早期に、確実に検出することができ、したがって、有接点式の磁気検出装置の接点の劣化による磁気検出装置の誤動作によって遊技が中断するのを確実に防止することができる。